

「農家の部」 日本農業新聞会長賞  
**井上 雅貴** 氏 (愛媛県西条市)

## 1. 経営者及び経営内容

井上氏は、県下でも有数の穀倉地帯である西条市で水稻（6.5ha）と県特産のはだか麦（4.4ha）の米麦作を組み合わせた専業農家で、地域農業の中核農家及び若手リーダーとして活躍している。

また、井上氏はしそ75a・里芋50a・キャベツ・15a・ブロッコリー15aを栽培し複合経営にも意欲的に取り組んでいる。

## 2. 技術上の特色

大型機械を駆使した大規模経営に取り組みながら、基本技術を忠実に励行して収量水準の高位安定化とコスト低減を実践している。

### (1) 湿害対策

はだか麦は湿害に非常に弱い。禎瑞地区は海岸に近く全般に地下水位が高い。このため、全圃場に弾丸暗きよ、3mおきの明きよ、額縁明きよ等を設置し、確実に圃場外に排水ができるよう排水対策を徹底している。また、定期的な見回りによる明きよの補修、土入を兼ねた明きよ設置等による排水対策を生育後半まで行っている。

### (2) 土づくり及び肥培管理

前作の稲わらは全量すき込みとしている。また、はだか麦は酸性土壌では生育が悪いため、苦土石灰を140kg/10a施用し、酸度矯正を行うなど、積極的に土づくりを進めている。

施肥は、基肥+中間追肥+穂肥体系である。基肥、穂肥は化成肥料、中間追肥は硫安を用い、コスト低減に努めている。JA、県の情報を参考に生育診断を行い、追肥や穂肥の施用時期や施用量を決定し、倒伏防止や収量・品質の向上に取り組んでいる。

### (3) 播種

優良種子の播種に心掛けている。定期的に種子更新を行い、播種種子は全量種子消毒を行っている。

良質麦生産のため、早播は避け、適期播種（11月中旬）に努めている。降雨などにより播種が遅れる場合は、播種量を増量など、出芽数の確保に努めている。なお、毎年、ドリルシーダーなどの使用機材の保守点検を実施し、播種の高精度化、発芽の均一化を図っている。

### (4) 土入れ・麦踏み

麦の生育状況と圃場の乾湿具合を見極め、1～2月に土入、麦踏みを実践している。土入は倒伏・湿害防止、麦踏みは分げつ・発根促進を目的に実施している。

### (5) 雑草及び病虫害防除

雑草防除はJA栽培指針に準じ、必要最小限の除草剤防除に努めている。出穂期以降に発生するカラスノエンドウは、麦に混入すると品質を低下させるので、収穫前に必ず除去している。

病虫害防除に関しては、常に県病虫害防除所ホームページの発生予察情報と圃場での発生状況を確認し、適期防除に努めている。

### (6) 適期収穫

はだか麦は収穫時期の降雨により収量や品質が低下する。このため、出穂期以降は、常に圃場巡回を実施し、圃場ごとの成熟具合と天候を把握し、適期収穫に努めるなど、細心の気くばりをして収量の高位安定化と上位等級麦の出荷に努めている。

### 3. 収量の向上、品質改善

県内の平成27年産はだか麦は生育後半の降雨により、根腐れや枯れ熟れが多く、圃場で発生し、県の平均単収は、220kg/10aと低調であった。一方、井上氏は、良質品種「マンネンボシ」で342kg/10aと、県平均を大幅に上回る収量を得た（155%）。

品質面においても、出穂以降の断続的な降雨、赤かび病注意報の発令された中、1等100%（愛媛県27年度平均1等94.1%、2等2.0%）と高品質の麦を生産した。

これらは、徹底した排水対策、適期防除、適期収穫に努めた結果である。

### 4. 労働時間の軽減

10a当たりの所要時間は8.5時間（愛媛県平均10.1時間）であり、土地利用、作業の集積と併せて大型機械化一貫作業により省力化を図っている。

### 5. 流通の改善・合理化

はだか麦は収穫適期が短く、収穫期の降雨は品質低下の原因となる。このため、適期収穫後、直ちに搬入できるCE・RCを利用している。また、井上氏の所属する西条市農業協同組合では、1か所のCE・RCで乾燥・調製を行っており共同乾燥等比率は99%と高く、良質麦生産に取り組んでいる。

### 6. 今後の麦作への取組み

井上氏は麦作体系を基本に、借地による生産単位の拡大による増収、排水対策と土づくりをベースとした基本技術の励行による単収・品質の向上、大型機械一貫作業による省力化と生産コストの低減を図る。

特に大型機械一貫作業により、より一層、栽培面積を拡大し、湿田でも栽培可能な栽培体系を検討・構築していく。

また、新奨励品種ハルヒメボシは硝子率が低く、良質・多収が期待できることから、順次、品種転換を図る予定である。

### 7. その他特記事項

現在、井上氏は西条市青年協議会会長、禎瑞生産組合代表、JA西条里芋部会副会長等、重責を担っている。人望も厚く地域の中核農家及びリーダーとして、地域農業振興に貢献する人材と期待されている。